

# 令和2（2020）年度 島根県立隠岐養護学校 学校評価報告書 2021.3.3

<b>教育目標</b>
児童生徒一人一人の障がいや発達に即した適正な教育をおこない、仲よく、明るく、たくましい人間への成長発達をめざす。
<b>学校経営方針</b>
(1) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに即した教育課程を編成、実践する。実践にあたっては行事との相乗効果を図る。 (2) 児童生徒が主体となる異年齢活動を展開する。 (3) 関係機関との連携を図り、自立と社会参加に向けた学習を積み上げる。 (4) 地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。 (5) 機会をとらえ、特別支援教育に対する地域の理解を進める。
<b>今年度の重点目標</b>
① 共生社会に向かう取組をしよう。 ☆多様な人と協力・協働の機会をつくる。 ② 人として、また、学校としての有用感を高めよう。 ☆役立ち感を高める教育。「ありがとう」のあふれる学校 ③ 専門性を高める。 ☆語る専門性を二つ以上もつ。

<b>【教職員、保護者アンケート評価基準】</b>	<b>【4段階評価基準】</b>
1：十分達成できている（そう思う）	A：十分に達成できている
2：おおむね達成できている（だいたいそう思う）	B：おおむね達成できている
3：どちらかといえば達成できていない（検討すべきである）	C：どちらかといえば達成できていない状況
4：ほとんど達成できていない（改善すべきである）	D：ほとんど達成できていない状況
5：わからない	

※網掛けは、各質問で最も多い評価。  
 ※わかりやすさのため小数点以下は四捨五入等で処理。

小数点以下を一律切り上げ処理した関係で、合計が100%になっていない項目がある。

項目NO.	児童生徒アンケート 質問項目	アンケート回答 (高 ⇄ 低、わからない)				
		1	2	3	4	5
1	先生は、授業中わかりやすく教えてくれていますか。	45%	36%	9%	0%	9%
2	できた、わかった、もっとやりたいと思った授業はありましたか。	27%	36%	9%	9%	18%
3	授業や学校行事は楽しいですか。	45%	27%	9%	0%	18%
4	授業や学校行事にすすんで参加したと思いますか。	36%	45%	0%	9%	9%
5	学校(教室)に毎日行くことは楽しいですか。	36%	18%	27%	0%	18%
6	先生は、学校のきまりや社会のルールをきちんと指導してくれていますか。	55%	27%	9%	0%	9%
7	あなたは、学校のきまりなどをしっかり守ったと思いますか。	27%	55%	0%	0%	18%
8	あなたは、すすんで挨拶をしたり、言葉づかいに気をつけたりすることはできましたか。	27%	36%	36%	0%	0%
9	あなたは、学校のクラスの友達や先輩、後輩にいじわるをされたことがありますか。	0%	0%	0%	91%	9%
10	あなたは、学校のクラスの友達や先輩、後輩にいじわるをしたことがありますか。	0%	0%	0%	100%	0%
11	あなたは、学校のクラスの友達や先輩、後輩がいじわるされているのを見たことがありますか。	0%	0%	0%	100%	0%
12	先生は、進路や友人関係などで、困った時、悩んだ時に話をしっかり聞いてくれますか。	45%	9%	18%	0%	27%
13	先生は、いつも気にかけて声をかけてくれていると思いますか。	45%	18%	0%	18%	18%
14	学校の勉強や生活は、自分の将来に役立つものと思いますか。	82%	18%	0%	0%	0%
15	学校の勉強や生活をとおして、昨年よりできることが増えたと思いますか。	64%	36%	0%	0%	0%
16	教室、作業室、体育館、校庭、トイレ、プレイルームなどは使いやすいですか。	36%	55%	9%	0%	0%

1：そう思う 2：思う 3：あまり思わない 4：思わない 5：わからない  
 (質問9、10、11は、1 ある 4 ない 5 わからない)

項目NO.	保護者アンケート 質問項目	アンケート回答 (高 ⇄ 低、わからない)			
		1	2	3	4
1	児童生徒が学校生活や学習活動に意欲的に取り組んだり、楽しみにしたりしている様子が見られましたか。	50%	29%	0%	0%
2	児童生徒の様子や授業のねらい、活動内容などが伝わりましたか。(連絡帳、懇談、日々の送迎時など)	46%	23%	8%	8%
3	生徒は学校生活や学習活動に目的意識や達成感をもって取り組んでいますか。	21%	64%	0%	0%
4	日常生活に必要なことからや生活技術を高めるために適切な支援がなされていると思いますか。	21%	57%	7%	7%
5	ホームページ、学校新聞・学級通信等により、日頃の学校生活の様子を知ることができましたか。	35%	41%	18%	0%
6	保護者懇談の回数や日程は、適切でしたか。	44%	33%	0%	6%
7	保護者懇談では、担任とお子さんの成長や課題、支援の仕方について話し合うことができましたか。	50%	39%	0%	6%
8	生活習慣、ルール、マナーについて適切に指導、支援が行われていましたか。	33%	39%	0%	6%
9	教職員の子どもや保護者等への接し方は適切だと思いますか。	42%	47%	5%	0%
10	現場実習が充実していると思いますか。	17%	50%	11%	0%
11	お便りや懇談等において、進路に関する情報提供がされていますか。	22%	39%	17%	6%
12	学校来校者や電話対応が迅速かつ丁寧にて、相手に不自信、不安感、不快感を与えることはありませんでしたか。	50%	33%	6%	0%

分掌等	教職員自己評価						学校関係者評価						
	重点目標	項目番号	評価指標	アンケート回答 (高 ⇄ 低、わからない)					評価・改善策等	4段階評価	評価・意見	4段階評価	
				1	2	3	4	5					
小 中 学 部	③	重点目標の達成を目指し、評価に基づく授業改善を行いながら授業づくりをする。	1	・学級会や指導検討会等を活用し、単元ごとまたは学期ごとに評価や振り返りを行い、授業改善に取り組むことができたか。	32%	68%	0%	0%	0%	どの学級も学級会や指導検討会等を活用して、定期的に評価と授業改善を行うことができた。また、日常的に放課後を使って児童生徒の様子を共有したり、授業の振り返りをしたりしながら授業改善に取り組んだ。保護者等への説明については、今後も連絡帳や懇談等を使って丁寧に説明していくことを心がけた。	B	・学校は、個々の児童生徒の特性に合わせた授業・対応を行っていると思う。 ・コロナ禍で大変な状況の中だが、大変素晴らしい活動ができていると思う。 ・新型コロナウイルス感染防止対策のため、例年の学校行事等が制限されてきたが、逆に新たな取組を開始している面も見られる。今後も地域との交流で様々な分野との連携を進めていくとよいと思う。 ・第一に子どもの成長を考え、教員間で相談、話し合いを重ね、日々努力をしている様子が見える。	B
高 等 部	②	自己有用感を養い、自分を表現する力や主体的に行動する力を育成する。(一人一人を支える授業づくり)	2	・生徒一人一人が有用感を高めるような取組を学期毎にまとめ、教員間で共有することができたか。	25%	75%	0%	0%	0%	有用感を高めるような取組のエピソードについて学期毎にまとめ、共有することができた。今後も一人一人を支える授業づくりのために、生徒の実態に応じた支援の工夫をしていく。また、学んだことや経験したこと等の定着を図るために、生徒の実態のとらえ直しやカリキュラムマップづくりによる学習内容の系統化に取り組んでいく必要もある。	B	・学校からの情報発信については、今後、学校関係者以外の関係機関等にも学校の情報を更に発信して行ってほしい。 ・ITを使った情報発信も必要だと思うが、それに頼りすぎることなく、バランスのよい情報発信ができればいいのではないかと。 ・情報発信等において、新しい言葉、横文字などは丁寧に具体的に説明することが大切。	B
総 務	①	関係機関との連携を図るとともに、広報活動の充実に努め、情報発信することで理解啓発を図る。	3	・ホームページへの週1回程度の記事掲載に向けて、各学部・分掌と共通理解し、組織的に取り組むことができたか。	38%	63%	0%	0%	0%	各学部・分掌等の協力を得て、児童生徒の学習状況や各行事、研修会等の具体的な内容を適宜情報発信することができた。週1回程度の掲載を念頭に年間のスケジュールを組んだが、活動の変更などにより掲載が遅れることもあった。総合体育大会や修学旅行など対外的な活動に関するタイムリーな掲載への要望もあるが、記事の掲載にあたっては関係者間で記載内容や写真等の確認が必要であり、結果報告という形にしている。来年度はホームページの形式を刷新する予定であり、よりニーズに対応できるよう努めていきたい。	B	・カリキュラムマップについては、今後どう活用していくか明確にして、教職員間で共通理解していくことが大切と思う。 ・保護者との関わりでは、時には、苦労もあると思うが、時間を多く使い、丁寧に連携を図っていただきたい。	B
教 務	②	一人一人の障がいや発達に応じた社会に開かれた教育課程の編成と実施に努める。	4	・合庁の展示スペース等を活用し、児童生徒の作品展示、学習活動、教育相談、就労支援の取組の状況などの情報提供することができたか。	62%	38%	0%	0%	0%	合庁の展示スペースに月毎に、各学部の児童生徒の作品を展示した。本校の児童生徒たちの活動の様子の一端を見てもらうことができた。教育相談、就労支援等に関する情報提供のためのパンフレット等の掲示もするようにしていきたい。	B	・保護者に対して、個別の指導計画を使って、丁寧な説明をして、取組等について理解を得ていくようにするとよい。 ・進路指導部の教員評価と保護者評価にずれがみられることから、保護者への情報発信が足りなかったことが考えられる。教員は伝えたつもりでも保護者に伝わっていないことがあるので、丁寧な説明が必要。	B
			5	・カリキュラムマップ(いつ、どこで、どのように役立ち感を高めていくか)の作成ができたか	20%	68%	12%	0%	0%	高等部と協力しながら、行事や各教科、合わせた指導についての今年度の実施状況をカリキュラムマップとしてまとめた。来年度に向けたカリキュラムマップの様式作成に取り組んでいきたい。	B	・保護者への情報は、昔から変わらず、1つのが達成されると、次はもっとできるようになってほしい、という感じになる。学校には、そんな保護者の気持ちを包み込むような感じで接してもらえるとよいと思う。特に高等部から入学した、中学校までの子どもの学校生活等に関連して、親自身の気持ちが傷ついていることも考えられる。	B
研 修 相 談	③	授業研究に取り組み、教育実践の深化を図る。	6	・学期に2回、新学習指導要領に関わる、研修会の実施または、教務だよりの発行ができたか。	48%	44%	4%	0%	4%	新学習指導要領についての研修を2回、ICT研修を1回、教務だよりの発行を1回行うことができた。今後も新学習指導要領の理解啓発に取り組んでいきたい。	B	・保護者からの厳しい意見の背景には、コロナ禍等での閉塞感のようなものもあるように思う。今後、PTAとして保護者同士がつながる場を考えていきたい。	B
			7	・研究サーフ会を年間4回実施し、学部での指導案検討、他グループの授業参観(全教員各2回)などができたか。	46%	54%	0%	0%	0%	全校で協力いただき、おおむね達成できた。今後も、校外に公開する授業については学部での指導案検討を継続したい。他グループの授業参観・研究協議参加については、継続して取り組んでいきたい。	B	・保護者の評価は、昔から変わらず、1つのが達成されると、次はもっとできるようになってほしい、という感じになる。学校には、そんな保護者の気持ちを包み込むような感じで接してもらえるとよいと思う。特に高等部から入学した、中学校までの子どもの学校生活等に関連して、親自身の気持ちが傷ついていることも考えられる。	B
			8	・生徒と地域の人が関わる機会を設定し、執行部活動や委員会活動で生徒が地域に貢献する活動に取り組むことができたか。(年2回)	48%	44%	4%	0%	4%	地域に貢献する活動として交通安全の看板設置ができた。また、新型コロナウイルス感染防止のため、地域の人との交流を通しての活動は、計画と調整が難しかったが、保育所との交流を1回実施することができた。活動は年2回実施できたが、この活動について保護者や地域の方への広報活動も行っていく必要がある。	B	・保護者への情報は、昔から変わらず、1つのが達成されると、次はもっとできるようになってほしい、という感じになる。学校には、そんな保護者の気持ちを包み込むような感じで接してもらえるとよいと思う。特に高等部から入学した、中学校までの子どもの学校生活等に関連して、親自身の気持ちが傷ついていることも考えられる。	B
進 路 指 導	②	保護者のニーズに応じた進路に関する情報提供をする。	9	・担任教員と連携を図り、1学期末の懇談時に進路に関するききとりアンケートを実施することができたか	54%	42%	4%	0%	0%	懇談での聞き取りを通して、ほぼすべての保護者から進路に関する思いや意見を聞くことができた。今後も定期的に行い、個々に応じた情報提供をしていきたい。	B	・保護者への情報は、昔から変わらず、1つのが達成されると、次はもっとできるようになってほしい、という感じになる。学校には、そんな保護者の気持ちを包み込むような感じで接してもらえるとよいと思う。特に高等部から入学した、中学校までの子どもの学校生活等に関連して、親自身の気持ちが傷ついていることも考えられる。	B
			10	・学期に1回進路だよりが発行されたか	46%	50%	4%	0%	0%	保護者の聞き取りアンケートの結果をふまえた内容の進路だよりを学期に1回発行することができた。今後は各学年だよりとの連携を図りながら進路だよりとしての内容を精選し、発行計画を立て、効果的に情報提供ができるようにしていきたい。	B	・保護者への情報は、昔から変わらず、1つのが達成されると、次はもっとできるようになってほしい、という感じになる。学校には、そんな保護者の気持ちを包み込むような感じで接してもらえるとよいと思う。特に高等部から入学した、中学校までの子どもの学校生活等に関連して、親自身の気持ちが傷ついていることも考えられる。	B
			11	・関係機関と連携して高2、高3の進路相談会を実施できたか	58%	38%	4%	0%	0%	生徒の進路希望に応じて、役場、みんなの作業所、仁万の里、太陽、相談支援事業所等の関係機関の方に参加していただき、生徒についての情報交換や将来を見据えた意見交換をすることができた。	B	・保護者への情報は、昔から変わらず、1つのが達成されると、次はもっとできるようになってほしい、という感じになる。学校には、そんな保護者の気持ちを包み込むような感じで接してもらえるとよいと思う。特に高等部から入学した、中学校までの子どもの学校生活等に関連して、親自身の気持ちが傷ついていることも考えられる。	B
事 務	③	施設・設備の適切な安全管理	12	公務災害の発生要件なし	84%	16%	0%	0%	0%	隠岐支庁県民局や施設一元管理受託事業者と連携し、また、毎学期に教職員が行う安全点検の結果を活用し、法定点検や大小の修繕など適切な施設設備の安全管理が行えたと考える。その結果、施設設備に起因する公務災害発生案件が認められなかったことを評価したい。本校施設は経年による老朽化が益々進むことや、島根県の各所属において例年多くの公務災害発生事案があるので、今後も適切な施設の安全管理に努めたい。	A		A

③	教員と事務職員の連携	13 就学奨励費、学校集金について、2月分以上の滞納案件なし	67%	33%	0%	0%	0%	教員と事務職員が連携をとりながら、学校集金を滞りなく行えている。毎月の口座振替不能世帯は若干あるものの、他の学校のように年度を超えて未納となる事案はない。今後も教員と事務職員が連携して適切に学校集金を行い、世帯負担の公平性を確保したい。また、就学奨励費と学校集金とは表裏一体なので、今後も就学奨励費の早期支給に努めたい。	B	A
---	------------	--------------------------------	-----	-----	----	----	----	--	---	---

5
21%
15%
14%
7%
6%
7%
6%
22%
5%
22%
17%
11%

項目 番号
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

